

強者の戦略

2020年度 東大地理 第2問 [解答解説編]

いかがでしたか？あまり解けなかったとしても、解答解説を読んでしっかり理解してくださいね。この問題のレベルは標準で、本番では高得点を取らねばならない問題になります。

【解答】

設問A

- (1) 肉類生産のために過剰な放牧が営まれ、植生が減少する。(26字)
- (2) 肉類や乳製品、動物性油脂を含んだ加工食品の摂取による肥満や成人病などが問題視され、少子高齢化が進んだこともあり、健康に留意した低カロリーの野菜や魚介類の摂取の割合が高まったため。(89字)
- (3) ペルーの動物性食品の摂取割合が低い理由は民族構成の主流をなす先住民が山岳地帯でジャガイモ中心の自給的な食文化を営んできたこと、白人主流のブラジルやアルゼンチンのように平原面積が大きくなく、企業的な農業での肉類生産ができなかったことである。(120字)

設問B

- (1) A－マレーシア B－ベトナム C－タイ
D－インドネシア E－フィリピン
- (2) 商品作物栽培や工業化進展で稲作が停滞し、生産量は増加したが人口増加に見合う増産にはならず輸入量が増え自給率が低下した。(59字)
- (3) 1970年頃は輸入量が生産量を上回っていたが、高収量品種の開発、緑の革命の進展により生産量が増加し自給できるようになった。(59字)

【解説】

設問A

- (1) いろんな解答が成り立つ問題だと思います。動物性食品は牛肉、豚肉、鶏肉、羊肉、乳製品などがあると思います。牛肉の生産のことを考えれば一番分かりやすいと思います。ブラジルでは熱帯

雨林が切り開かれて、牧場が建設されている地域もあります。このような地域では**過剰な放牧による植生の減少、熱帯雨林の破壊**などの悪影響が挙げられると思います。アメリカ合衆国のグレートプレーンズでは肉牛の放牧やフィードロットによる肉牛の肥育が行われています。**肉牛の成育に必要な水を過剰に取水すれば地下水の枯渇につながりますし、飼料作物のトウモロコシを過剰に生産すれば土壌劣化、土壌流出などの悪影響も出てきます**。ここでは、よっぽど変なことを書かない限りは1点獲得できそうです。

- (2) この問題に関しては正直、3行ではなく2行問題でも良かったんじゃないかと思います。1～6の国はいずれも先進国であるため、少子高齢化が進んで健康に留意した食生活に変化しつつあることを主眼に書けば良いでしょう(アメリカ合衆国はまだまだ年少人口の割合が高いですが)。この骨子だけで2行まで到達できるはず。あとは、動物性食品を細かく、肉類・乳製品・動物性油脂を含んだ加工食品(チョコレートやアイスクリームなど)と記載し、健康に留意する以上の表現として肥満や成人病まで触れるようにしました。あと、動物性食品の摂取割合が下がったので、それ以外で多く摂取されるようになった食品の具体例を示し(野菜や魚介類)、解答を作成しました。
- (3) この問題はちょっと書きづらいです。指定ワードを見ると書けそうな気がしますが、題意に沿って4行でまとめるのは難しいと思います。まず、[ペルー]と[アルゼンチン、ブラジル]の異なる特徴を見抜きます。50年の経年変化で見れば三者三様な感じもしますが、2013年だけ見れば、アルゼンチンとブラジルの動物性食品の摂取割合が高く、ペルーの割合が低くなっています。この点を異なる特徴としましょう。つまり、ペルーの動物性食品の摂取割合がそんなに高くない理由を4行で述べる問題に置き換わりました。そしてここから論の立て方ですが、理由1としてペルーが動物性食

強者の戦略

品ではなく他の食べ物を主流としているということ、理由2としてペルーが多くの動物性食品を生産しにくいこと、を主軸にしましょう。この辺りの感覚は指定ワードから推察できるようになってください。

理由1で考慮した他の食べ物はジャガイモです。ジャガイモは寒冷な気候を好む作物で、指定ワードに山岳地帯が入っている、「山岳地帯→ジャガイモ」は出題者の中で想定されていると思います。食文化という指定ワードを使用する時は「ジャガイモ中心の食文化」が良いと思います。

次に理由2の述べ方を考えていきます。アルゼンチンの混合農業地帯はラプラタ川近辺のパンパ地帯です。起伏の緩やかな平原となっています。東部の湿潤パンパでは豊富な降水量を生かしてトウモロコシやアルファルファなどの飼料作物や牧草が生産され、肉牛の肥育に用いられています。ブラジルでは熱帯雨林地帯で粗放的牧畜が営まれ、やや中央部のマットグロッソ州などでは飼料作物にトウモロコシや大豆を利用した大規模な肉牛肥育が営まれています。熱帯雨林地帯は低地であり、マットグロッソ州などは高原となっています。どちらも起伏がゆるやかです。つまり、ブラジルもアルゼンチンも多くの肉牛を飼育できる平原や高原があるから肉類を生産でき、それ故、動物性食品の摂取割合も高くなっているということもできます。山岳地帯と平原地帯を比較しながら書きましょう。

あとは農業と民族構成の使い方です。農業は、ペルーが自給的農業、アルゼンチン・ブラジルが企業的農業となります。民族構成は、ペルーが先住民(インディオ)中心で、アルゼンチン・ブラジルが白人中心となります。4行の中で論を成立させながら、農業や民族構成の言葉を入れるのは結構難しいですよ。

設問B

(1) この問題は共通テストレベルなので、間違える

ことは御法度ですよ。米は自給作物なので、人口規模によって生産量・供給量などが左右されます。生産量が最も多くなっているDは、人口規模が最も大きいインドネシア(約2億7000万人)に該当します。Cは自給率が178%と非常に高くなっているため、米の輸出量世界1位のタイに該当します。BはCに次いでかなり輸出量が多くなっています。東南アジアの国で米の輸出量が多い国は、タイ以外ならベトナムなので、Bはベトナムが該当します。今回は出題されていませんが、ベトナムの米の輸出に関する問題は典型問題です。表にもあるように、1969-1973年の間、ベトナムの自給率は91%しかなく、米の輸入国でした。しかし、**社会主義型市場経済を目指すドイモイ(刷新)政策を1986年から実施したことにより、農民の生産意欲が向上し、米の生産量が伸び始めました**。結果的に、2009-2013年に自給率は135%となり、米の輸出国に変貌しました。この知識は入試必須知識ですよ。残るAとEも人口規模から解答が可能で、生産量が多いEが人口規模の大きいフィリピン(約1億人)、残るAは人口規模の小さいマレーシア(約3100万人)に該当します。

(2) ちょっと面食らう問題です。米に関する問題でマレーシアが聞かれた問題はあまりなかったと思います。記号と国名の当てはめを間違っただけじゃないかと一瞬思いますよね。とりあえず類題をあまり解いていないので、表から読み取れることを述べるしかなさそうです。「生産量は伸びているが供給量も増えているため輸入量が増え、自給率が下がっている」くらいがすぐに頭に浮かぶ解答です。ですがたった38字にしか達していません。あと20字で、生産量を伸ばせなかった理由を付け足すことになりそうです。「プランテーション作物として油ヤシを盛んに生産することで、稲作の停滞を招いた」という解答が1つ、もしくは「工業化の進展によって農村人口が減少し、稲作の停滞を招いた」という解答が1つ、頭に浮かんだら

強者の戦略

良いでしょう。どちらか1つの要素で十分だと思いますが、私の解答では何とか2つの要素を盛り込むようにしました。

- (3) D国がインドネシアと分かれば勝ったも同然ですね。東大の過去問でほぼ同じ問題が出ていましたよ。1997年出題時も表を利用した問題でした。答えは書かないようにしますが、過去問学習が有用であることを教えてください。

次回も東大の2020年度の問題を解説するつもりです。それまでにしっかり頑張って実力を上げておいてくださいね！

【東大 1997年】

設問 C

表2は、東南アジアの主要な米の生産国であるインドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーの4カ国について、米の生産量と消費量を、それぞれ3カ年平均で示したものである。

- (1) (a)~(c)の国名を、それぞれ(a)–○○のように答えよ。
- (2) (a)国について、そう判断した理由を2行以内で述べよ。

表2 (単位 百万トン)

国	生産量			消費量		
	1963-65年	1979-81年	1991-93年	1963-65年	1979-81年	1991-93年
(a)	12.3	29.6	46.9	13.5	31.9	46.8
ベトナム	9.7*	11.8	21.3	9.5*	13.1	18.8
(b)	9.6	17.0	19.7	6.9	12.5	12.3
(c)	8.1	12.6	15.2	5.8	11.6	14.9

生産量・消費量ともモミ量換算。消費量=生産量+輸入量-輸出量。

*は当時の南北両ベトナムの合計。

(FAO資料による。)

この問題の解答に必要な知識は**緑の革命**です。緑の革命はちゃんと説明できますか？緑の革命とは「**品種改良や栽培技術の改善を行って高収量の農産物を生産し、発展途上地域の食料問題の解消を図ろうとする技術革新のこと**」(『地理用語集』)です。インドネシアはもともと米の輸入国でしたが、緑の革命が進展することで自給率100%を達成できました。まあ、かなりぎりぎりですけどね。あと、緑の革命を述べる時には「**高収量品種**」という言葉を使った方がいいですよ。